

VII 校内研修

1 学校教育目標

地域で豊かに自分らしく生きる

2 研究主題（2年次）

児童生徒が「できる」を実感する授業づくり～「学びのプロセス」に着目して～

3 研究主題の設定について

(1) これまでの取組から

当校は平成28年度から令和元年度の4年間、「分かって動ける授業づくり」に取り組んだ。その成果として、①（物的・人的）支援環境の設定、②活動参加の機会確保（量的→質的）が挙げられる。

令和2年度からの3年間は、学習指導要領の改訂に伴い、3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）を意識した目標設定と評価に焦点を当て、「興味・関心をもって取り組む授業づくり」を目指した。その成果としては、①実態把握表を活用した目標設定、②評価規準を明確にした学習評価が挙げられる。

(2) 児童生徒の実態から

当校の指導の重点は、「一人一人の『できる力』を見つけ、伸ばし、生活に生かす」である。これは、裏を返せば、児童生徒一人一人が自分のできることを見つけ、伸ばし、生活に生かすことに弱さが見られるからと言える。実際、学齢が上がるにつれて、新しいことにチャレンジしたり、継続して取り組んだりすることが難しくなっている。

また、学習活動に「楽しみ」や「やりがい」を見い出せず、活動参加に抵抗感を示す児童生徒も見られる。限られた物的・人的支援環境のため、児童生徒一人一人の実態に合わせた環境設定の難しさにジレンマを感じる教職員も少なくない。

(3) 学習指導要領から

小学部の学習指導要領が全面実施されて4年、中学部は3年、高等部は2年が経過している。令和4年度の県教委のアンケート結果によると、県内35校ある特別支援学校において「学習指導要領の改訂に伴う教育活動の見直しや改善が進んでいる」と回答した学校は、2割程度にとどまっている。当校も取組が進んでいるとは言い難い。そのため、下図の学習指導要領等の6つの枠組みの見直しを踏まえ、教育課程や各種計画（年間指導計画、個別の教育支援計画、個別の指導計画）、授業改善を早急に進めなければならない。

◆学習指導要領等の枠組みの見直し◆

- ①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
- ⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

引用：平成30年度全国特別支援学校知的障害教育校長会資料

(4) 本年度の研究主題について

前年度に当校で第30回新潟県特別支援教育音楽授業研究会（以下：特支音研）が開催された。小学部の音楽科授業をモデルケースとして、児童の「学びのプロセス」に着目し、児童が「できる」を実感する授業づくりを提案した（授業の詳細については、『見附の学校教育 63号』に記載）。取組の成果と課題として以下の点が挙げられた。

＜成果○と課題●＞

- 児童の「学びのプロセス」を、「インプット活動（理解する）」→「インテイク活動（定着する）」→「アウトプット活動（表現する）」とステップを踏むことで、活動のねらいが明確になり、指導計画や学習評価が立てやすくなった。
- 公開した音楽科授業では、上記の3つの活動を学期ごとに4時間ずつ行う学習計画を立てていた。期間としては長期に渡る学習活動であったが、「パラバルーン」を取り入れたことが、児童の「楽しみ」や「やりがい」につながったと考える。
- 前年度は、「学びのプロセス」のモデルケースとして音楽科授業を取り上げたが、他の教科や領域においても「学びのプロセス」が有効かどうか検証が必要である。
- 全教職員が、「学びのプロセス」を意識し、児童生徒が「できる」を実感する授業づくりに取り組みする研修体制の構築が必要である。

上記の成果と課題を踏まえ、本年度も、「学びのプロセス」に着目し、児童生徒が「できる」を実感する授業づくりを目指す。

4 めざす児童生徒の姿

◎楽しみややりがいを見つけ、自分のできることを増やし、生活に生かそうとする姿

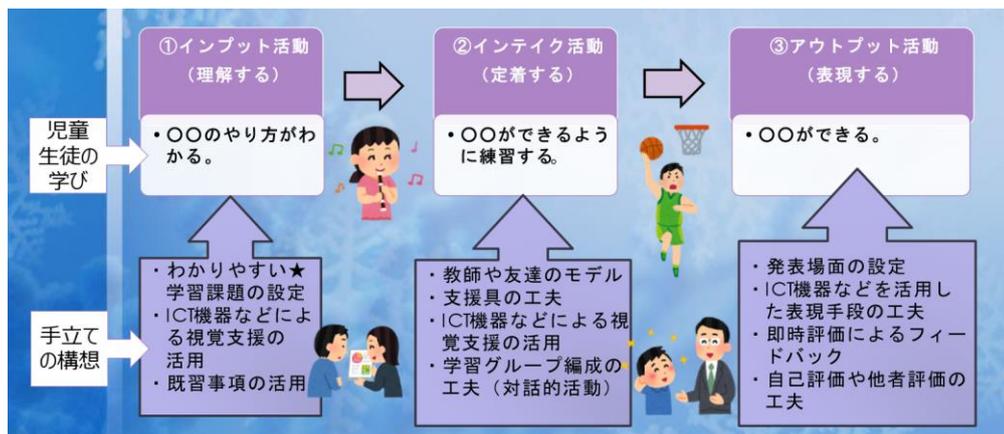


◎具体的な姿と3観点との関連

- 「わかった!」、「できた!」等と実感する。（「知識・技能」と関連）
- 「どうしたらできるかな」等と考え、工夫する。（「思考・判断・表現」と関連）
- 「やりたい!」、「またやってみたい!」、「家や園でもやってみたい!」等と思う。（「主体的に学習に取り組む態度」と関連）

5 研究方法

めざす児童生徒の姿に迫るため、児童生徒の「学びのプロセス」に則り、下図のように「インプット活動（理解する）」→「インテイク活動（定着する）」→「アウトプット活動（表現する）」とステップを踏む単元計画を構想し、それぞれの活動において適切な手立てを工夫する。



6 授業づくりの視点

(1) 児童生徒の「学びのプロセス」を意識した「活動構成」

特支音研の公開授業では、「学びのプロセス」を踏まえて活動構成を行った。具体的には、

① パラバルーンの体験（インプット活動）→②リトミックにつながる動きの体験（インテイク活動）→③自分なりに動かす体験（アウトプット活動）を行った結果、児童の自発的な表現を引き出すことができた。これを参考に、授業計画者は、授業計画案を立てる際に、「学びのプロセス」を意識した活動構成を試みる。

(2) 児童生徒の楽しみややりがいにつながる「教材開発」

特支音研の公開授業では、「パラバルーン」を取り入れたことが児童の楽しみややりがいにつながり、継続的な学習活動成立の要因になったと考える。これを参考にして、具体的な実践を通して児童生徒の思いや願いを生かした教材開発を試みる。

(3) 児童生徒への効果的な「支援の仕方」

特支音研の公開授業では、インテイク活動（定着する）において、BGMに変化を付けることで児童がパラバルーンの動かし方を変える工夫が見られた。これを参考に、効果的な支援の仕方を実践し、検証を試みる。

7 研修の概要

(1) 児童生徒が「できる」を実感する授業づくり（研究主題）

◎全体研修（年間4回）

指導者を招聘し、授業を参観していただくとともに、研究テーマに関わる講話をしていただく。

①第1回（5月ころ）：校内研修の概要説明

②第2回（6月または7月）：外部指導者による授業参観ならびに講話

④第4回（2月ころ）：研修のまとめ

*第3回は年間指導計画に関わる研修

◎学部研修（(1)(2)合わせて毎月1回、年間10回程度）

「学びのプロセス」を意識した単元計画を作成・検討し、実施する。（グループ研修）

(2) 「教科等を合わせた指導」の年間指導計画の見直し（3観点の目標設定）

◎全体研修（年間1回）

③第3回（7～8月）：教育課程についての話し合い

◎学部研修（(1)(2)合わせて毎月1回、年間10回程度）

全学部で家庭社会生活・ライフの年間指導計画について見直しを行い、3観点の目標を設定する。

*教育課程及び各種計画等の見直し（※教育課程検討委員会と連携有）

年度末には、次年度に向けての教育課程及び各種計画等の見直しを行い、令和7年度の年間指導計画を作成する。

(3) 学部のニーズに応じた研修

学部研修の時間を活用して、学部ごとに必要な研修を行う。

(4) 各分掌主催の研修

上記の研修以外に、医療的ケア検討委員会や安全・防災教育部、進路指導部など各分掌主催の研修会が行われる予定である。

(5) その他

全教職員は、全体研修や学部研修等で配付される指導案や研修資料等を各自でファイリングし、それをもって「研修のまとめ」とする。ファイルは、年度当初に研究推進委員会より配付される。

8 研修の年間予定

学期	期 日	内 容	学部研修	その他校内研修等
1 学期	4月			<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア研修会 ・児童生徒情報交換会
	5月	①全体研修（5/7） （本年度の校内研修の概要説明） ・教職員向け図書の紹介	① 5 / （概要説明、分担等）	<ul style="list-style-type: none"> ・無断外出捜索訓練
	6～7月	②全体研修（外部指導者講話）	② 6 / ③ 7 /	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法講習会
夏季 休業	7～8月	③全体研修（教育課程） ・教職員向け図書の購入	④ 8 /	<ul style="list-style-type: none"> ・市特別支援教育研究会 ・市人権同和教育研修会 ・生徒指導ミニ研修、情報交換会 ・進路学習会 ・消火訓練
2 学期	9～11月		⑤ 9 / ⑥ 10 / ⑦ 11 /	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育、同和教育校内研修 ・不審者対応訓練 ・県特別支援学校知的障害教育研究大会
	12月	・令和7年度年間指導計画作成	⑧ 12 /	
3 学期	1月	・「見附市の学校教育」原稿提出	⑨ 1 /	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒情報交換会
	2月	④全体研修（研修のまとめ）	⑩ 2 /	
	3月	・令和7年度年間指導計画完成		

単元計画

年間指導計画

※学部研修は水曜日の実施を基本とし、学部毎に設定する。